

水稲新品種「ユメコガネ」の主要特性

春原 嘉弘・上原 泰樹*・川村 陽一・舘山 元春**・諏訪 充**・横山 裕正・藤村 泰樹***

(青森県農業試験場藤坂支場・*北陸農業試験場・**青森県農業試験場・***青森県営農大学校)

Characteristics of a Newly Released Rice Variety "Yumekogane"

Yoshihiro SUNOHARA, Yasuki UEHARA*, Yoichi KAWAMURA, Motoharu TATEYAMA**,

Mitsuru SUWA**, Hiromasa YOKOYAMA and Yasuki FUJIMURA***

(Fujisaka Branch, Aomori Agricultural Experiment Station・*Hokuriku National Agricultural Experiment Station・**Aomori Agricultural Experiment Station・***Aomori Prefectural College of Vocational Agriculture)

1 はじめに

主要特性について述べ、本品種の普及、指導の参考としたい。

寒冷地北部及びこれより以南の中山間地帯では、これまで奨励していた極早生品種の耐冷性が不十分なことから、良食味品種への指向が強まっていることから、極早生品種の作付が減少し、これらの地帯の稲作が一層不安定なものとなっていた。そのため、耐冷性が強く、品質・食味が優れた極早生品種の育成が待ち望まれていた。「ユメコガネ」(旧系統名：ふ系167号)は、1986年青森県農業試験場藤坂支場において極早生・耐冷・良質・良食味品種の育成を目標に、「ゆきひかり」を母とし、「ハッコガネ」を父として人工交配した雑種後代から選抜された品種で、1995年から青森県、群馬県及び長野県で奨励品種に採用された。本報では、品種育成の過程で明らかになった「ユメコガネ」の

2 形態的特性

移植時の苗丈は「ハッコガネ」並の“中”，葉色は「ハッコガネ」並の“濃”である。稈長は「ハッコガネ」並で、穂長は「ハッコガネ」並かやや長く、穂数は「ハッコガネ」よりやや多い、短稈、偏穂重型の梗種である(表1)。稈は「ハッコガネ」よりやや細い“中”で、やや剛く、耐倒伏性は「ハッコガネ」並に強い。粒着密度は「ハッコガネ」より疎の“やや密”で、穎色及び稈先色は“黄白”で、短芒を“少”程度生じる。出穂期頃の葉色は「ハッコガネ」よりやや濃く、止葉の葉身はやや長く、立ち、草姿はやや乱れる。

表1 生産力検定試験結果

品種名	施肥	出穂期 (月. 日)	成熟期 (月. 日)	倒伏 程度 (1-5)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	全重 (kg/a)	玄米重 (kg/a)	収量 比率 (%)	玄米 千粒重 (g)	品質
ユメコガネ	標肥	8. 1	9.14	0.0	65	17.5	487	132.6	42.4	97	20.8	4.8
	多肥	8. 2	9.16	0.1	69	18.1	569	146.4	43.4	95	20.5	4.6
ハッコガネ	標肥	7.31	9.12	0.0	63	16.8	440	129.2	43.6	100	21.3	5.6
	多肥	8. 1	9.14	0.0	66	17.3	532	145.3	45.6	100	21.1	5.9
ハマアサヒ	標肥	8. 3	9.14	0.0	72	17.4	478	144.0	40.0	92	19.9	5.7
	多肥	8. 4	9.16	0.0	75	17.9	539	156.1	41.1	90	19.7	5.3

注. 育成地の1991年～1994年の平均値である。

3 生態的特性

出穂期、成熟期ともに「ハッコガネ」より1日程度遅い“極早生”に属する(表1)。耐冷性は「ハッコガネ」, 「ハマアサヒ」より明らかに強く“極強”である(表2)。いもち病の真性抵抗性遺伝子型はPi-a, Pi-k, Pi-taと推定され、圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちともに「ハッコガネ」並の“中”である。白葉枯病抵抗性は「ハッコガネ」より弱く、「ハマアサヒ」並の“弱”である。穂発芽性は「ハッコガネ」, 「ハマアサヒ」より発芽しにくい“やや難”である。平常年での収量性は「ハッコガネ」よりやや劣るが(表1)、低温年次では「ハッコガネ」より障害不稔が

少なく、気象変動に対して安定性が高い。

表2 障害型耐冷性検定結果

品種名	出穂期 (月. 日)	不稔歩合 (%)	判定
ユメコガネ	7.30	12.3	極強
中間母本農8号	7.31	14.7	極強
オイラセ	7.30	30.7	強
ハッコガネ	7.30	42.4	やや強
ハマアサヒ	8. 3	43.9	やや強
中母36¥	8. 5	31.9	極強

注. 水温を約19.5℃, 水深25～30cmとし、約40日間処理した。成績は冷害年を除く1990年, 1992年, 1994年の平均値で示した。

表3 食味官能試験結果

品種名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	基準品種	試験回数	パネル数
ユメコガネ	0.48	0.21	0.05	0.50	0.48	-0.12	ハッコガネ	2	11~14
ユメコガネ	0.25	0.19	0.00	0.01	0.27	-0.10	キタオウ	4	11~15

注. 冷害の1993年を除く1990年から1994年に実施した試験の平均値で示した。

評価基準は-3 (悪い, 粘らない, 軟らかい) ~ 0 (同じ) ~ +3 (良い, 粘る, 硬い)。

4 品質・食味特性

玄米の粒形, 粒大は「ハッコガネ」並の“中”である。千粒重は「ハッコガネ」並かやや軽い。玄米は色沢が淡く, 腹白の発現が少なく, 品質は「ハッコガネ」より良好である(表1)。搗精は「ハッコガネ」並かややしにくく, 搗精歩留り, 精米白度は「ハッコガネ」並である。食味は「ハッコガネ」よりまさり良好である(表3)。

5 栽培上の留意点

「ユメコガネ」の栽培に当たっては, 初期の生育量がやや不足気味なので, 健苗育成や本田の水管理に努め, 初期生育の確保を図ることが必要である。いもち病抵抗性は遺伝子*Pi-a*, *Pi-k*及び*Pi-ta*を持ち, 圃場抵抗性は強くないので, 基本防除を励行する。耐冷性は“極強”であるが, 低温時には深水灌漑を行う。また, 白葉枯病抵抗性は“弱”なので, 常発地帯での作付は避ける。